

## 第2回 熊本市部活動改革検討委員会

### <議事録>

令和7年(2025年)3月19日  
熊本市教育センター 4F 大研修室

#### ○次第

- 1 開会
- 2 協議 「今後の新しい学校部活動の課題」
  - (1) 指導を希望する人材の確保の方策
  - (2) 指導者の研修体制の構築に向けた方策
- 3 各委員より挨拶
- 4 諸連絡
- 5 閉会

資料1

資料2

#### ○議事録

##### 1 開会

###### 【清水教育審議員】

定刻となりましたので、これより第2回 熊本市部活動改革検討委員会を開会します。  
本日は第2回目の検討委員会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。  
私は、本日進行を務めます、熊本市教育委員会事務局・教育改革推進課の清水です。議事に入りますまでの間は、事務局の方で進行いたします。よろしくお願いいたします。  
本日は6名の委員にご出席いただいております、委員定数7名の半数以上がご出席ですので、「熊本市部活動改革検討委員会運営要綱」第6条の規定により、本日の会議は成立していることをご報告いたします。  
また、同要綱第7条の規定に基づき、本委員会は公開とさせていただきます。  
では早速ですが、議事に移りますので、進行を委員長にお願いいたします。  
はじめに、坂下委員長からご挨拶をいただきます。

##### 2 協議

###### 【坂下委員長】

失礼いたします。皆様改めまして、こんにちは。  
本日は、年度末のお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

令和6年度の熊本市部活動改革検討委員会は、指導者の確保、研修体制の構築、これらの施策について、前回教育長より諮問を受けたところでございます。

今年度は2回の開催ということで、今回が最後でございます。どちらも大変重要な部分となります。前回も貴重なご意見をいただきましたが、本日もさらに委員の皆様よりご意見を賜りますよう、どうぞよろしく願いいたします。

それでは協議に入っていきたいと思っております。

本日の協議は前回に続き、「今後の新しい学校部活動の課題」についてとなります。

最初に事務局から資料を説明していただき、そのあと委員の皆様からご意見をいただきます。

それでは最初に、事務局より、(1)「指導を希望する人材の確保の方策」について、説明をお願いいたします。

#### 【朽木教育改革推進課長】

—事務局説明（省略）—

#### 【坂下委員長】

ご説明いただきましてありがとうございます。

それでは、今の説明に対するご質問がございましたらお願いいたします。

また、事務局からもありましたが、人材確保は大変難しい課題でございますけれども、ご意見等も含めてお願いできればと思います。

ご質問・ご意見を委員の皆様よりお願いいたします。

#### 【西島委員】

人材確保については、前回申し上げたように、資料にもいろいろところで「学校主体で」と書いてありますが、学校の先生というよりも、どちらかというと保護者の方の力が一番大事だと思います。我が子の活動ですから、自分たちも汗をかかないとなかなか指導者確保は難しいのかなと思っています。

熊本市では良い例がありまして、小学校の部活動が、もう7、8年前に、社会体育へ移行になりました。その際に熊本市は熊本県と違い、独自でやったということです。今も3割ぐらいは地域が小学校を使って部活動が継続されていると思います。

このときに教育委員会とか学校が指導者を求めたということはないです。あくまでも、希望される先生は継続し、継続を希望される先生がいない部活は、部活動を廃止または保護者が地域の人材を探し継続されています。

私たちの地域の龍田は、先生が指導するというのではなくて、地域が指導しています。地域の人材を発掘するには、保護者の方たちがいろんなネットワークで探され、サッカー、野球、バレーボールが今も続いています。

今、バレーボールと、軟式野球は保護者中心にやっています。

サッカーについては、うちのクラブでやっています。そういうふうには、保護者の方で、そこ

に人材がいるので、探すとどうにかなるかと思います。

ここの中に「希望する」と書いてあるのですけれども、希望者を募っても、熊本市の人材バンクも、なかなか集まらないと思うのです。願いをすることにより、「やってもいいよ」と言う人の確保が大切です。小学校の方でも「やりたい。やってもいい。」という先生はいらっしゃいます。

小学校部活動社会体育移行の時、自分から積極的じゃなくて、誰かに頼まれたら指導をされたかもしれないけれども、「方針として、社会体育移行だからもう私たちはやらない」という人もいたと思うのです。そこで申し上げたような「希望する」というよりも、「やってもいいよ」という人達をもう少し掘り起こすという形でやると、もう少しアンケートの中で希望する方は、3分の1ぐらいだったのですが、例えば「やってもいいよ」になると、半分ぐらいいらっしゃるのではないかな、と私は憶測するのです。学校は学校として、やりたくない人は、やらなくていいので、教員に協力を求めるということが大切であると思います。それと、もう1つは、保護者が中心に地域あたりから掘り起こすということをやったほうがいいのではないかなと思います。確かにスポーツ団体とか、企業とか大学とか、教育委員会でここ1年間すごく頑張ってもらってると思うのです。ただそれだけではなかなか埋められないのかなと思います。その辺も合わせて、中学校の話し合いの中で、そういうことも1つの方策として、考えていただければいいかなと思います。

#### 【坂下委員長】

ありがとうございます。

地域をよく知ってもらってる保護者の方、そして、先生方も「やってもいい」と思ってもらえるような先生方に積極的にお願いしていくというようなご意見だったと思います。

ありがとうございます。

他の委員の皆様いかがでしょうか。

#### 【田中委員】

質問で、まず横浜市の、「部活動指導員のうち、9割以上は学校関係者からの紹介」とありますが、なぜこんな9割以上も学校関係者から出てきているのかな、というのが1点です。それと、「次年度以降は、令和6年度の取組に加え、以下の取組を実施する予定」というところで、「学校関係者（管理職、各部の担当教諭、保護者等）による推薦」。これはどのような形で推薦を上げて、誰がこれを交渉していくように計画されているのかを教えてください。お願いします。

#### 【朽木教育改革推進課長】

まず1点目の横浜市の「9割以上が学校関係者からの紹介」ということですが、まずは、学校が学校部活動を残していますので、校長が責任を持って、人材を確保するという流れが、横浜市全体の中であるということは、担当者の方からもお聞きしているところでございます。

逆にその人材バンクの中にも、300人程度登録がありますけれども、そちらから任用するのはほんの一部であって、ここに書いてある通り、9割以上が学校の推薦で賄っているということです。

採用する前まですべて学校の方で行って、教育委員会はそれを任用するだけという形をとられている、とお聞きしております。

また2点目の次年度以降の取組で、「学校関係者による推薦」ですけれども、こちらの方は、まだしっかりとしたスキームはできておりませんので、後日、田中委員や千田委員にもご相談させていただきたいと思っております。

#### 【千田委員】

確認ですが、令和7年度から人材バンクへの登録が始まるということを確認したいのですが、それは間違いないですか。

#### 【朽木教育改革推進課長】

来年度にマッチングシステムを構築しますので、その契約によってはおそらく12月ぐらいにシステムができ上がるのかなと思っております。

それと同時に、人材募集の開始をしたいと考えております。

#### 【千田委員】

前回のこの会議の時に、資料にメモしているのですが、この2つ目の「学校関係者による推薦」のところで、自分の資料に「各学校で地域の人材を掘り起こすことが大切」と書いているのです。だから地域の人、PTAの役員さんあたりを通じて、「こういう競技がうちはあるのだけれども、或いはそれ以外でもいいから手伝っていただけます方おられないですか」というふうに投げかけると、結構「こんな方がおられる」ということで、ある程度は人が発掘できるのではないかなと思います。

ただ、その方々をお願いするのを、またどのようにしていくかというところは、課題かなということ、1点思います。

それと、年度末を迎えて先生方と面談したのですが、面談の中で、「部活動がこのシステムになったときに、担当してもらえますか？」というのを率直に聞いたのですが、意外と先生方ですね、「サブでよければ」とか、「副でよければ」とか、或いは、「私は、主で大丈夫です」と言われました。

もちろん、はっきり「しなくていいならしませんが」と断言される方もおられますけど、意外と先生方はそんなふうに捉えていただけてるのだな、と思いました。それは担当課の方で、各学校を回られて説明とかされていることが大分浸透として、こういうシステムで熊本市はいくのだなということが浸透してきたからではないかなと思います。

他都市に比べて本市では1,600人ぐらいというところが、私はとても重くて、それには各学校での地域の人材の発掘プラス先生方にも、もちろん「しません」という方はそれでいいのですが、「やってもいいよ」という方々には、しっかりとお願いすることが大事なのではな

いかな、というのは現場にいて今回感じました。

**【坂下委員長】**

大変貴重なご意見をありがとうございます。

希望するという表現にしておりますが、「やってもいい」と思っている先生にお願いしていくというようなところも大事にさせていただくということと、今ご意見の中で、「サブだったら」というようなお話も出ておりましたので、報酬もお支払いしますし、「メインでないならば、やっていただける」というような先生方への働きかけも大事にしていっていただければというのを、今お話を聞いて思ったところでございます。

**【藤本委員】**

私が思うに、前回の資料をいただいて、指導者体制が、一部活動当たり4人、全部で1,600人と、細かいところまで書いてあったのですが、仮に私が「部活動指導をお願いします」と言われたときに、1週間のタイムスケジュール、モデル例でいいと思うのですが、「平日は何時から何時で、この時間帯。週末に月2回か1回か、対外の練習試合がある」等のモデルを示していただければ、もう少しわかりやすいと思います。人数を集めるのは大前提なのですが、実際どのくらい時間が必要なのかということをお示しいただければ、もっと興味とか、目が届くというか、目につくというか、指導したい方にも上手く伝わっていくのではないかなと感じております。

**【坂下委員長】**

本当に貴重なご意見だったと思います。色々なパターンをお示しいただくとか、或いは時間帯、前回もワンポイントだったらできそうだと、というようなお話もありました。そういう方に手伝っていただけるような計画といたしますか、モデルを示していただくようなところも、やはり人数を集めるためには大事なかなというふうに今お話を伺いました。

**【平江委員】**

資料を送っていただいたので、ずっと見ていたのですが、今日の資料の中で、熊本市の方策で、1,600人以上という人材ということで見てみましたけれど、横浜から北九州それから岡山までありますけど、一番近いのは岡山です。それでも部活動指導員は115名というふうになっています。一番多い横浜市で、370万人ぐらい居るところで、やっとなべ1,066人ということになっています。熊本市が今70万人ぐらいです。70万人都市で1,600人というのは、よその都市に比べると相当人数が多く確保しなければならないということになるわけです。それを、もちろん今から考えなければならないのですが、視察に行かれたとか、向こうから来てもらったとかいう説明がございましたが、この中で熊本市の参考になるようなところがあったらお話いただけませんか。よろしく申し上げます。

**【朽木教育改革推進課長】**

先ほど人数の話が出ましたけれども、1,600人というのは、教職員の方で希望される方も含んでの数になりますので、一概にこの部活動指導員の人数と対比できるものではないということをご理解いただければと思います。

私も視察に横浜市へ行かせていただきましたけれども、学校関係者からの紹介というのが基本ベースになっているのだなということを強く感じたところです。

そうすると学校も、校長が責任を持って指導者を確保するというのもできてきますし、校長としても、そのあとの部活動の運営がやりやすいということをお聞きしております。

それと、大学生の活用が非常に多いということがすごく特色だと思っておりますので、意見交換を行った内容も活かしながら今後検討して参りたいと思っております。

#### 【平江委員】

教職員も含めてということではあるみたいですが、先ほど西島委員からありました「学校関係主体で動くより保護者から」という話が出ましたが、私は富合町に住んでいます。富合町も、最終的に富合の小学校か中学校で辞められた校長先生が中心になって活動されています。

地域にいろいろ話をするとき、地域の人が一番知っているという気がするのです。私は富合だったからよくわかりませんが、あちこち町から先生になって行かれて、最終的にはなんとなく近いところで終わられる方が多いように感じます。

そういう人は割とその地域をよく知っている方が多いのかなという気がするのです。富合町は、割とうまく運営できているところがあると思います。

ただ1つ気になるのが、どうしても基本的にスポーツ面が多いのです。

スポーツ関係は割と指導者がおられるのです。文化面が地域におろしたときに、あまり活発じゃないなという感じがしているのです。指導者が居ないとは思わないのですけれど、そこが今からの課題かなと思いました。

#### 【坂下委員長】

ありがとうございます。

参考になる情報と、今後の課題として文化面の指導者の発掘、そこも大事になってくるかと思えます。

#### 【田中委員】

質問です。令和7年度の部活動指導員、各学校1名配置の42名を探していただいていると思うのですが、現在部活動指導員の来年度配置予定人数が、今大体どれぐらいいらっしゃるのかなというところを教えてください。

#### 【松岡指導課長】

指導課でございます。

今現在30名でございます。

【田中委員】

併せてよろしいですか。部活動指導員の時間数というのは、これまでと同じで探されたのか、それとも例えば「週に1、2回でもいいですよ」とかというような、そういう基準で採用されたのか、教えていただければと思います。

【松岡指導課長】

指導課でございます。

今年度までと同じ条件で探しております。

【田中委員】

では、例えば、令和8年度の募集についても同じような基準で、部活動指導員の方は選んでいかれるような計画ですか。

【朽木教育改革推進課長】

これまで735時間上限で募集しましたがけれども、その時数も今後検討していかなくてはならないかなと考えております。

例えば300時間で2人にする、または200時間で3人にするなど、そちらも検討して参りたいと思っております。

【田中委員】

質問をしたのが、実はうちにも、運動クラブのコーチがやはり外部指導者がいらっしゃって、現行の735時間だったらどうしてもできませんと言われました。ただ、今言ったように「週に3回とか、数時間であれば、立候補だったり、推薦していただいても構いません」という方は、何人かいらっしゃいました。

で、今部活動指導員が30人と聞いて、結局、各学校1名というのが出来なかったところには、もしかしたら、そういうところがあるのかなと、個人的に思いました。

あと、これは私の意見ですが、今言ったように、例えば週に1回ずつでも、ちょっとずつ集めていくと、組み合わせで指導者は探すことができると思います。

その人たちも最初は週1回であったところが、2回3回と増えるようなことも想定されるのかなと思います。

また話が戻ってしまいますが、本市では1,600人の指導者の確保というところで、私も以前いただいた資料を見ながら、やはり現実的には、先生方に頼らないと非常に難しいのかなと思っています。今も学校部活動が500部ほどありますけれども、最低2名、中には3名程度の顧問をつけています。ですから、1,000人を超すぐらいの先生方が指導していらっしゃいますが、その3割程度に留まってしまえば、本当にこれだけの数を探し出すのは難しいなと思っています。

先ほど質問しました横浜の例は、やはり学校長が何らかの形で確保していくという時には、

きっと何らかの働きかけをしていただきながら、確保ができていのかと思います。そういう仕組みを学校の校長もしていけないとなかなか難しいのかなと思っています。ですから、先生方も私たちが何かしらお話をするとき、「週 1、2 回でもいいですよ。土日はなくても、平日だけでもいいですよ」というような条件が出てきます。あと兼職兼業あたりが今どうなっているのかというのも気になります。

先程申したように、先生方にやっぱり頼らざるを得ない状況であれば、やはり運営しやすい時間帯、それから今申し上げました、兼職兼業のところをきちんと説明ができるような状況になって、また先生方に働きかけをしていくと、また状況も変わってくるのかなと、資料を読みながら、また委員さんのお話を聞きながら思ったところです。

**【坂下委員長】**

はい、ありがとうございます。

何点かご示唆をいただいたと思っております。

兼職兼業について、今の状況お願いいたします。

**【朽木教育改革推進課長】**

兼職兼業も出来るように、今、制度の方を確立しているところですがけれども、先ほど藤本委員からもありました通り、指導者の確保については、例えば時給の話や、ローテーション、複数指導体制で行って、例えば 2 日、3 日でも大丈夫ということも、正確にお知らせしながら、人材を確保して参りたいと思っております。

**【坂下委員長】**

ありがとうございます。是非そのような対策を進めていただければありがたいと思っております。

**【西島委員】**

1 つお願いです。先ほど平江委員の方も話されましたが、この部活動指導員ですが、指導者と外部指導者といろんな名前が混在して、何が部活動指導員かわかりません。

ですから、部活動指導員の役割はこういうもので、指導者の役割はこういうもので、外部指導者はこういうものという形の整理をきちんとやらないと、これを見ると部活動指導員が何人で、1,600 人まで何人足りないという話にどうしてもなるのです。

「部活動指導員は何をしているの？普通の指導者と変わらないのですか？」ということもあるので、部活動指導員はどんな役割で、以前この会議の前の検討会のときちょっとお話したように、「コーディネートする人たちがそういう形であり、指導者の中が内部指導者とか外部指導者とか、そんな感じで分けたらどうだろうか？」という話もしたと思うのですけれども、言葉の整理をしないと、みんな誤解してしまうのではないかなと思います。

実際、この部活動指導員という名前自体が「どんなことするのか？どう違うのか？」ということがよくわかりませんので、その辺を整理していただければ助かります。

**【朽木教育改革推進課長】**

今の話なのですが、部活動指導員は、対外試合や大会引率ができる、今の顧問の人と一緒にです。先生たちの顧問と一緒にの同等のレベルだと思います。

外部指導者はまた別で、大会引率は基本的にできないことになっております。

現在新しい学校部活動の方針を、前回素案でお示ししましたけれども、そこでは、顧問と副顧問として整理させていただいております。顧問が、大会の引率ができるような形で考えておりますけれども、そちらの方も整理をして、Q&Aという形で今後発信したいと考えております。

**【坂下委員長】**

ありがとうございます。ご意見等、他にはございませんでしょうか。

今回、何点か新たな視点を委員の皆様からいただいております。

部活動指導員であったとしても、その時間数はどのくらいやるのか、そういうことも、柔軟にやっていただいたり、タイムスケジュール等を整理して示していただいたり、或いは先生方に対して、やってもいいあるいはサブだったらというような方に、もっと働きかけていく。そして、地域を知ってらっしゃる先生方そして保護者の方からも情報を得るといような、貴重なご意見をいただいております。

**【西島委員】**

最近教育委員会の方で、小学校と中学校の連携を働きかけてらっしゃるみたいなので、実際先ほどもご紹介した小学校の部活動を見ていらっしゃる方もいらっしゃるので、そういう方の活用といいますか、小学校との連携も非常に大事なかなと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

**【朽木教育改革推進課長】**

直近のアンケート調査では、小学校の先生たちにも、中学校の部活動の指導を行ってもよいかということをお聞きしております。約 15%の職員が中学校の部活動に興味がある方もいらっしゃいますので、今後その辺も掘り起こしながらやっていきたいと考えております。

**【坂下委員長】**

はい、是非よろしくお願ひ致します。本日も意見をいただいておりますけれども、よろしいでしょうか。

それでは重要な議題でありますので、まだ検討したいところですが、もう1つ残っております、2つ目の議題にまず移らせていただいて、そのあと時間がありましたらまた、戻らせていただければと思っております。

それでは事務局より、(2)「指導者の研修体制の構築に向けた方策」につきまして、ご説明をお願ひいたします。

【朽木教育改革推進課長】

—事務局説明（省略）—

【坂下委員長】

ご説明ありがとうございます。

大変内容が多くなっております。ここに書いてありますような研修内容、そして研修形態、研修時期といたしますか、研修のあり方等ですね、幅広い内容になっておりますけれども、ご質問も含めて、お気づきの点、ご意見等いただければと思っております。

【藤本委員】

ご質問なのですが、9ページの「研修時期及び主な内容」のところで、例えばこれ（例）と書いてありますが、（ウ）の11,12,13の、「トレーニング理論」、「コーチング理論」、「マネジメント理論」。これは指導が始まってから研修を受けるということですかね。

【朽木教育改革推進課長】

はい、そうです。

【藤本委員】

私はこういう運動指導が専門なのですが、やはりトレーニングを始める前と後の理論というか、今インターネット等で学生の方も、頭に入っていますので、できれば指導開始前にも、理論的な研修をやったほうがいいのかと思います。

今からいろいろ検討協議をされてどうするかということはあるかと思うのですが、指導前に受けた方がいいかなと思います。

【平江委員】

パッと見て、これを本当に徹底するのは大変だなと思います。年配のシニアの方だったら、ある程度のところは言っても「分かる、分かる」というふうに言われるかもしれませんが、学生さんやもっと若い方に対して、これほどまでの研修を実施して、その時間と労力とエネルギーでやるのは相当大変かなという、そんな心配をします。

心配するのは、よく指導の行き過ぎとか、そういうことが新聞沙汰になります。

どうしても僕はそういうところが心配してしまうのですが、その付近を、一番にやらなきゃならないことと、徐々にやれることがあると思うのですが、その付近の考えは、もしよかったらちょっとお聞かせいただけませんか。

【朽木教育改革推進課長】

今、平江委員のおっしゃる通りで、私たちが見ても結構大変だなと思っておりますけれども、その質の担保と、そのバランスの難しさ、それとオンラインでやるのか、集合でやるのか

によっても負担が変わってきますし、例えば教職員は除外する項目があるのかなども今後検討していかなくてはならないと考えております。

#### 【平江委員】

多分、そういうことだろうと思うのですが、「指導員になってもいい」というふうに来られたときに、こっちから、この研修を行ってくださいとバーツと出してしまうと、何となくもういいかなとなってしまうかというそんな懸念があります。

やっと、「手伝ってみたい」となったときに、研修内容として「これもこれもあります、是非やってください」とか、その過程として、もちろん徹底させなければならないところではあるのだろうと思うのですが、これからの課題かなと思いました。

#### 【西島委員】

集合研修とかオンデマンド研修になると、これだけするのが大変なのです。何日とかかります。基本的に総合型がなかなか指導者の確保が難しいとかいう話になると、教えることだけではなくて、いろんなことを学ばないといけないわけです。

そうすると、研修にしょっちゅう行くというのは難しい。私もクラブを運営するためにアシスタントマネージャーの資格を取りましたが、NHKの通信教育みたいなものをもって、県の総合型がやってらっしゃる研修 2 日受けて、テストを受けて合格というような感じで、そこまで負担ではありませんでした。

ですから、しょっちゅう集合ではなくて、やはり基本的に「こういうことを書いたものをちゃんとお配りして目を通していってください。特にここは、今問題なのでここは注意してください、ここだけは最低読んでください」とか、そういう感じでやらないと、自分が余暇の時間に読むのはいいのですけれども、決められたときに行くというのは非常に難しいのです。そういうことがあるので、(ア)、(イ)、(エ)、(オ) 位はすぐ私でもできるのかなと思います。

(ウ)については、先ほど藤本委員の方がお話しになったのですけれども、それぞれの競技に、A、B、C、D ぐらいまで、指導者の資格があるのです。サッカーで申し上げますと D はこどもたちに教えるぐらい。ここは 2 日で終わるのです。ただ C とか B とかなると、もう 1 週間研修に行かなくてはいけない。そうするとなかなか仕事をしていらっしゃる方達が行けない。ですから、「19時から研修をやりますよ」と言っても 1 週間ずっと行かなくてはいけないとか、そういう形になっているので、最低、サッカーでいう D ぐらいの部分は「皆さん方受けてくださいよ」と。主になる顧問の方たちは「もう少し上の段階でお願いします」とか、そのような体制をつくってはいかがでしょうか。

あともう 1 つが、競技団体の方たちに「指導者をお願いします」ということでお願いしに行ったときに、自分自身がクラブの指導をしているとか、大会の運営あたりで大変だから、そこまで手が回らないという話をこの間されたと思いますけれども、最低でも競技団体はそういう技術的な講習会にご協力いただくような体制のお願いというのにも必要ななと思っています。

(ア)、(イ)、(エ)、(オ)辺りは教育委員会で十分できると思うのですが、(ウ)辺りは今藤本委員とか、それぞれの競技団体があると思うので、そういうところをお願いをして、研修をするというと思います。また、研修も受けやすいというか、時間を取らないで自分が自由にできるようなところでやっていくというのが、指導者に負担をかけない部分かと思っております。

#### 【藤本委員】

西島委員のご発言に関連してちょっとお話をしたいと思います。

指導者資格というのは、4年ないし5年で更新をします。更新するためには講習を受けなければいけない種目とか、講習会に参加して単位を取って、更新する種目とかあります。今回、例えば4月1日に皆さん全員で指導者になりました、というスタートではないと思うのです。6月の方もいらっしゃる、7月の方もいるかと思えます。ですから、例えば2年とか3年で1回更新の研修を受ける、(ア)から(オ)の中でいくつかピックアップしたのを必ず受けて、また次の2期目に向かうとかいうのも1つ方策かなと思えますので、付け加えさせていただきます。

#### 【坂下委員長】

ありがとうございます。

今委員の方々から内容、そして受ける時期についてご意見をいただいております。

その他、お気づきの点がございましたらお願いいたします。

#### 【平江委員】

すいません、ちょっと外れるかもしれないですけど、資料の7ページの上に、文化系部活動の研修体制ということで、玉名女子高校で2回ほどされています。

玉名女子高校といえば、それこそ名の知れた吹奏楽の名門ですけど、ここでされたというのは何か意義があるのだらうと思うのです。私は実はコーラスの指導を今でもしているのですが、例えば部活動を考えたときに、きちんと指導される先生がおられる。そこに例えば、若い大学生みたいな、「私はコーラスを指導してみたい。でも自分だけではなかなか進まない。やっぱり指導者の方がおられて、そのサブぐらいのところで、もしやれたらいいかな」という発想も私はあると思うのです。部活動関係は割とそうなのですが、メインでやられたところに、「サブでやってみたい、自分の勉強にもなる。」そういう形の部活動のあり方というのは、千田先生はブラスバンドですけど、大体文化系というのは、そんな感じがあるのです。

メインで、全く分からないでというのはまずないと思うのです。ある程度知った方がおられて、そこに行って自分も学びたいとか、そういう形の指導というのは、かなりあると思うのです。

先ほど言いましたけど、文化系がなかなか指導員の方がおられないということだと思っておりますので、そういう形でも大学生などが、「ここだったら行ってみたい」とか、そういう形ができ

たら文化系は理想かなと思いましたが、よろしくお願いします。

**【坂下委員長】**

ありがとうございます。参加しながら指導も学んでいくということですね。それは大事な学びの形だと思いますので、そういうことも可能になるような体制づくりをお願いいたします。

**【平江委員】**

だから、ここにいっぱい研修の項目が書いてありますが、もしそういう方がおられると、そういう方からの指導や研修をしなくても伝わると思うのです。そういうことを考えました。

**【千田委員】**

先ほど吹奏楽の話が出ましたけれども、文化系は指導者の講習会というのはなかなかないのです。

実は、熊本市吹奏楽研究会で世話係をしているのは私です。玉名女子高校の米田先生という先生にお願いして、初めて吹奏楽を持たれる先生もおられましたので、基礎合奏というのはこんなふうにしてやりましょう、音作りのところです。

それが終わった後、今度は人作りのところで、こういう運営をしていったら上手くいきますよというような、指導者研修会ではそのような研修です。

リーダー研修会では、指導者プラス各部の部長さん・副部長さんの生徒も連れて行って、一緒に玉名女子高校さんと演奏したり、パート練習したり、そして、米田先生の指導を受けたり、指導者の先生方も、また個別に先生とお話をしたりとか、そういうところで、日頃の悩みとかを聞いてもらうなどそのような会にしました。

合唱部、吹奏楽部、熊本市も活発に活動していますけれども、どなたかベテランの先生の合唱部とか指導をしておられる先生のところとか、或いはベテランの先生がやっておられる吹奏楽部を、文化系の指導者が一堂に寄って参観して、いろいろ質問をするなど、そういう形も研修にはなるのかなと思っています。

**【坂下委員長】**

ありがとうございます。大変すばらしい研修をされているというふうにお聞きしました。指導法を学ぶ、生徒も参加させているというような、あり方の例を教えてくださいましてありがとうございます。

来年度から研修プログラムについて検討が始まるということですので、本日はいろんなご意見をいただければと考えているところでございます。

**【田中委員】**

学校部活動としてなので、やはり一番に期待するのは、学校教育活動としての意義、次に

こどもたちの一番成長している時期ですから、心と体の健全育成。それから指導者の方が指導の方向性を間違わないよう、勝利至上主義には絶対にならないようにというところを、やはりわかっていた上で指導員になっていただきたいという思いがあります。

今たくさん委員さんのお話を聞いてなるほどと思ったのが、私も競技の方で、資格を更新していくために、何年に1回中央研修に何日間も行って、やはりその中でコンプライアンスだったり、ハラスメントだったり、そういうものも含めて持ち帰ってきています。

そういう方々はたくさんいらっしゃると思うので、おそらく、基本は今私が言った学校教育活動としての意義をしっかりと捉えていただいた中で、例えば競技ごとだと、その種目に特化した、科学的根拠を基に効果がある、そういうものも初めての指導の先生方もご理解してそれがすぐ実践できるかなとも思いました。

またその種目で、割と第一人者的な方がおっしゃると、割と聞く人もそうなのだと飲み込みやすくなるのかなと思います。

なかなか服務関係などだと、タブレット越しでもなかなか関心が薄いかなと思うのですが、そういう講師の先生のオンデマンド辺りが、その種目の先生方だと、とても理解しやすかったり、受け入れやすかったりというのもあるのかなと、今委員の方のお話を聞いて思ったところです。

#### 【坂下委員長】

中学校の部活動として、必ず押さえていただきたい点をご指摘いただいたところと、あとは種目ごとというのは、先ほどの吹奏楽にも通じるかと思いますが、種目ごとにある指導法であったりとか、トレーニング方法であったりなど、受ける方にとっても、モチベーションが上がるのではないかと、私も聞いていて思ったところがございます。ご意見ありがとうございます。

いくつか委員の方から、貴重なご意見をいただいているところがございますが、来年度に向けましてお気づきの点とかありましたら、お願いしたいと思います。

#### 【西島委員】

9ページの「集合研修」の中に、「研修規模にもよるが100人～200人の先着順」と書いてあるのですが、今、千田委員と田中委員の方から、それぞれ競技ごととか、部ごとみたいな形は非常に私も良いのかなと思います。

特にお互いに集まることで研修だけではなくて、情報交換もできるのです。その横の繋がりが広がっていくので、非常にいいことだと思います。

もう1つですが、仮に座学にしたときに、それも大事だと思いますが、やはり地域です。

「100人が市役所の大ホールに来なさい」ではなくて、逆に地域の人達が集まって、地域で研修することによって地域の繋がりが出てきます。また、いくつか合同部活動というのが実施されています。まちづくりセンターが熊本市にはいっぱいあるので、その単位ぐらいで集まることによって、「うちはちょっと少ないから、お互いに合同部活動ができないか」とかいうのも出てくるかと思っているので、研修の形態としては、先ほどの各専門部という形の

ものも1つだし、地域という形の部分も必要かなと思いますので、その辺もあわせて考えていただければありがたいです。

**【坂下委員長】**

ご意見ありがとうございます。

研修の仕方として、種目そして地域というようなご提案をいただいているところでございます。ありがとうございます。

**【平江委員】**

龍田の取り組みをちょっと話していただいけませんか。

この前、熊本城桜町ホールの2階で熊本市の文化協会の総合文化祭がありました。そのときに、龍田地区から子どもたちのコーラスがあったのです。若い女性の方が指導員として来られていました。小学校単位だったと思うのですが、ものすごくいい声で、元気のいい声で歌ったのです。

龍田はすごい取り組みしているなというイメージがあるのですが、その付近をちょっと話していただいけませんか。

**【西島委員】**

すいません、文化的なものはあんまり詳しくないのですけれども、基本的に龍田西小学校は、吹奏楽のOBの先生が指導されて、今小学生だけでなく中学生でもやりたいという生徒も一緒にやったり、基本的に先生たちが中心にやってらっしゃるのです。それぞれ合唱あたりもいろんな方がいらっしゃると思うので、その地域の方達がそういう形をすると、結構できるのではないかなと思います。

龍田では「身近な森の音楽会」というのを、龍田プレーパークでやっています。ここには小中学校のブラスバンドだったり金管バンドとか合唱とか前座として、演奏を行い、その後一流の歌手のステージがあります。また夏祭りあたりもそういう子どもたちの発表の場を作っています。発表の場を作ることによって子どもたちは、それを目標にいろんなことをやります。

今度また中学校は3月の20何日かに、吹奏楽の発表会みたいのがあるのです。そういう形の発表の場で、競技スポーツの場合は結構そういう試合があるのですけれども、文化部はなかなか発表する場がないのでそういう発表会みたいなのを、地域と一緒に学校がやってくといいのかなと思います。

龍田中学校も小学校も、町と一緒に形でそういう形でやっています。どこでもやっているのかなと思いつつも、うちの方はそんな感じでやってらっしゃいます。

**【坂下委員長】**

小・中学校の連携、そして地域との繋がりということで、その成果が出ていると聞いておりました。ありがとうございます。

今日は研修についてということで、ご意見をいただいているところでございます。いくつか、新たな視点が委員の皆様から出されております。

1,600人という指導者をどう研修していくかということですが、種目、地域ごとに実地するような行い方、あとは中学校の子どもたちにとって大事なところを押さえるところ、さらにはトレーニングの理論等、最新の事例を教えていただくことになるかと思えます。集まってやるというところでは、先ほどありました、横の繋がりもつくれるような、そういう形態にさせていただくと、より次に繋がっていく、そういう研修になるのかなと聞いていたところです。義務的な研修にならないように、その研修が次のモチベーションに繋がるようなやり方を考えていっていかねばいけないなど、委員の皆様のお話を聞いて感じたところでございます。

#### 【遠藤教育長】

もし時間に余裕があるのでしたら、坂下委員長の委員としてのご意見もぜひ言っていただいてもいいかなと思います。先ほどの人材確保でもいいですし、今の研修についてでもいいです。

#### 【坂下委員長】

人材確保に関しては、他の都市の例などを紹介していただき、今回委員の皆様から出していたのは、地域というところで掘り起こしていく、それも保護者を含め学校が一番地域の人材を知っているのではないかということと、先生方への働きかけ、これまではずべて学校にお任せして、ボランティアのようにお願いしていた部分がかかなりあったと思いますが、今回新たな部活動として、「こういうことでやっていきますので、子どもたちに関わっていただきたい」ということも説明に回っていらっしゃると思いましたけれども、それをよく説明していただいて、先生方のお力をお借りしたいというのも、強く思ったところです。

先生方も、年齢等によって、「半分ぐらいだったらお手伝いできる」とか、いろいろなお立場があるかと思えますので、自分のできる関わり方で関わっていただく、そういうことができればなと思っております。

私自身も、学生と関わることによっていろんな学びを得ております。先生方も、子どもたちと関わりたいと思っていらっしゃる先生方はいらっしゃると思いますので、そういう先生方をお願いして、是非子どもたちと関わっていただきたいと思いました。

そして、先生方と地域から来てくださる指導者の方々と一緒に、先ほどの研修会とかで繋がっていただき、指導法の研修等も関わっていただければというようなところも考えているところでございます。

そして、今回の「研修のあり方」というところですが、私自身も、田中委員がおっしゃってくださったように、中学校の部活動において押さえないといけない、心と体の健全発達、本当に大事な時期だと思いますので、そこをしっかりと伝えていただきたいということ、あと、前回の検討委員会でも話題になりましたが、勝利至上主義にはならない。そういうところをしっかりと押さえていただくというところをお願いしたいと思っております。

あとは、これだけの内容をどのように指導していくかは優先順位をつけていただき、どれも大事なところがございますので、研修の形態、時期については、しっかり練っていただければと思っております。

ちょっと取り止めもない話になってしまいましたけれども、今日の会議を受けまして感じたところを述べさせていただいたところがございます。

#### 【平江委員】

私が言うことではないのかもしれませんが、今小学校で部活動がもうなくなりました。一部学校でやっているところもあります。ただ、随分形が変わってきていると思うのです。そうになると、今度は中学校から子どもたちは新しい種目に入っていくということになるわけです。それを最初に忘れてはいけないことかな、と実は思うのです。

私は今、大人の合唱団を見ているのですけれど、コーラスをやる人たちがだんだん高齢化してきて、あまり若い人たちが入ってこないのです。なぜかという、割とこの人たちは小さいときに歌っているのです。

そういう経験があると、大人になっても「歌いたいな」と入ってくるわけです。そういう体験のスタートが中学校の部活動なのです。中学校のときに「これはよかった、部活動をしてよかった」とか、悪かったこともあるかもしれませんが、経験することが中学校から始まるわけです。

そこが一番大切なところで、ここの出会いが一番大切にしなければならないことかなと思います。

要するに部活動というのは、好きなことをするわけですから、しない子もいっぱいいますけれど、そこである意味、下手すると人生が変わるぐらいの経験ができるわけです。初めての好きだけで始まる。それが部活動だと思っております。

そこを基本に忘れてはいけないところかなと思います。私の中でもそうだったもので、よろしく願います。

#### 【坂下委員長】

ありがとうございます。

本当に大事なことだと思います。子どもたちが好きなことを見つけてやっていく。それを減らさないというのが前回の検討委員会の方針であったと思っております。

ありがとうございます。本日最後になりますので、どうぞお気づきの点がございましたら、お願いいたします。

#### 【西島委員】

(1)、(2)については大体皆さん方お話になったと思うので、またお願いしたいのですけれども、今後進めていく中で、先ほどから申し上げたように、今まで保護者は、「学校部活動は学校がするもの」という認識の方が大半だったのです。

私が30年ぐらい前に後援会長をしたときに、「先生たちがいるから、部活動ができている」

という話をしたとき「はあ？」って言われた方がたくさんいらっしゃいました。そういうことを言う部活動の後援会長が、あんまりいないのです。今回これがあったことで、部活動が、教職員のボランティア的なことでずっと賄われてきたというのがわかった部分だけでもいいのかなと思います。

ただ、現在こういう話が新聞等でもでているのですけれども、ご存じの方というのはPTAの役員さんぐらいです。今、町の中で私もまちづくりやっているので、そこからPTAさんが入っておられるので、やっとPTA会長さんからそういう声が出てきたのです。

今までは、「指導者は、何でこんな下手な指導者がいるのだろうか？」みたいな話をされていた。また、「先生たちが、自分たちの時間を子どもたちのために費やしながらやってきたこと自体を私たちは知らなかった。だから、もうそういうことはやめましょう、ありがたいな、と思ひましょう。」という話を、ちょうどまちづくりの委員会の中で中学校のPTA会長さんが紹介されました。

まだ知らない方がたくさんいらっしゃるの、先ほど申し上げたように指導者もですが、この学校部活動をどうやってその学校で続けていくかというのは、やはり学校で考えるべきだと思うのです。学校は、教師もいますけれども保護者や子どもも居ます。

この間、田中委員がおっしゃっておられたのが、総合部活動みたいな、そんな感じの部を提案したら、「自分たちの部活動の時間が取られるのではないか」等、そういう話もあるのだけれども、本当に楽しみたいという子もいらっしゃるのです。

だからそういうお互いの部分を子どもたち同士が譲り合うようなことも、その中でできていくのではないかなと思います。

「自分がやりたい」、「自分たちが」ではなくて、「弱いところはいらない」とかいう話でもないと思うので、保護者と学校と生徒も、生徒が主役なので、この3者で少し話をした上で、地域が加入して応援していくという形を、きちんと話し合いをしていただきたいと思ひます。

小学校部活の移行の時に、そういうのが一切なく、「社会体育移行ですから、あとは、受けるところを見つけてください」みたいな話だったのです。教育委員会が出された指針にはそんなこと書いてありませんでした。

ただ、そういうことをきちんと説明しないとできませんので、その辺の話し合いを令和7年度にしっかりやっていただいて、素地を作っていけばいいのかなと思います。

地域の中で、保護者自体がやってもらっているのが当たり前みたいな話になっているので、保護者もきちんと巻き込んでいただきたいなと思ひますので、よろしくお願ひします。

#### 【朽木教育改革推進課長】

ありがとうございます。

小学校の社会体育移行のときに、そういったことがなかったということで、4月から私どもも丁寧に進めてきたつもりでございますし、先日、前回の第1回するときにも、新しい学校部活動の名称を公募しますということをお伝えしたと思ひます。

今回、4月末から、新しい学校部活動の名称の公募を開始しますけれども、その中で、3分

程度の短い動画を、今日、今回オブザーバーで来ていただいておりますけれど、MY プロデューサーさんのご協力のもと、この新しい学校部活動がどう変わります、こういった課題があって、新しい学校部活動はどのように変わりますということを、3分程度の短い動画で、保護者、児童生徒へ、ホームページ等にも公開しますので、熊本市民の皆さんに見ていただいて、周知を図って参りたいと思っております。

#### 【西島委員】

もう1点は、今柔道とか剣道とか、武道の先生も少ないのです。龍田でいきますと、柔道は松龍館という道場がずっとやってらっしゃいます。総合型クラブでいきますと、天明とか飽田あたりは剣道とか柔道は地域でやってらっしゃいます。

中学校の部活動では難しく、地域ができるところは地域の方に少しずつ移行できるような、その辺も学校単位の中でどこがやるのかという話も進めていき、地域で応援できるところは地域に任せるという形も1つ必要なのかなと思っております。

そうすると、指導者の方の問題も解決するのかなと思っておりますので、あわせて考えていただければありがたいと思います。

また、事務局の方から話があり、うちのクラブとしてお手伝い出来ることもあるのではという話もありましたので、総合型自体も、全部は出来ませんが、種目によってはできるところがあるので、連携をお願いしたいと思っております。

#### 【坂下委員長】

地域の力を借りながらやっていく方向もぜひお願いしたいと思います。

他に委員の皆様、よろしいでしょうか。

2回という会議でしたけれども、大変難しい人材確保そして研修のあり方ということで、議論を進めてきたところでございます。

2回の中でも、貴重なご意見をいただき、それをまた整理して、次年度につなげていただければと思います。

それでは、本日をもって最終回となりますので、最後に委員お1人ずつに、感想、今後の部活動への展望・要望をいただければと思っております。

それでは3ページの名簿順にお願いしてよろしいでしょうか。

田中委員の方からお願いします。

#### 【田中委員】

ありがとうございます。

先が見えないではないですが、少しずつクリアになっていくごとに課題がたくさんあるなと思っております。

本当に自分の今学校の中で、来年度入ってくるこどもたちや保護者に対しては、令和9年度はこういう方向ですが、まだ期待を持たせる言い方もしてしまっている自分もいるかなと思っております。

いざ今のような状況に上手くシフトしていった時に、学校の中で誰がどうコーディネートしながら、例えば吹奏楽であれば、誰が学校を開けて、音楽室を一般の方が学校の中に勝手に入ってきて、ということ、本当に小さいことですが考えていく。そういうことを1個1個丁寧に対応していくには、本当に時間があと2年しかないのかなと思うと、自分たちもできることを共有してお伝えしながらやっていかないといけないかなと思いました。以上です。ありがとうございました。

#### 【千田委員】

この会議に参加できて、いろいろ発言ができたことに本当にありがたく思っております。先ほど発言すればよかったのですが、熊本県の音楽教育研究会で世話係をしているのですが、1月に九州8県、福岡に集まり話し合いがあって、その中の情報交換の中で、各県の部活動どうなっていますかということで、それで「熊本市の取り組みはこうなっています」と話したら、他県はびっくりされていました。スポーツの部活動関係者はいないので、結局音楽の先生方ばかりです。

他の県は、何か話しているけれども、全然末端まで何も来てないといわれていました。もっと熊本の話を聞きたい、とおっしゃったのですが、市のホームページにも載っていますよというような話はしました。

先ほど田中先生も言われましたけれども、いろいろなハードルが出てきて、小さくすればするほど、「このときはどうなるの？こんなときはどうなるの？」となります。でもそのハードルはありますけれども、令和9年に名前がどうなるかわかりませんが、新部活動になると思うので、スタートができることを願いながら、最後に挨拶ということですので、もう大変お世話になりました。

#### 【西島委員】

いろいろと、今までの自分の経験をもとに、今の地域の実情も含めてですが、お話しさせていただきました。

とりあえず当事者たちがしっかり話し合うことが一番大事かと思っていますので、地域もしっかりサポートしていきますので、よろしくお願ひしたいと思います。

特に、教育長が最初に言われたように、熊本独自ということで、他所はほとんど地域移行をしていますけれども、熊本市はそのまま教育的意義、そういう形が前の検討委員会から引き継いだところなのですが、中学校部活動という先生たちの方もご苦労もあると思いますけれども、そういう形で残ったということは子どもたちにとって非常に幸せだと思いますので、引き続き協力させていただきますのでよろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

#### 【平江委員】

いろいろ思うところはたくさんあったのですが、何でもそうですけど、「産みの苦しみ」といいますか、こういう新しいことをするときにはなかなか難しいこととは思っています。

ただ先ほど西島委員も言われましたように、熊本市は独自の展開を今進めているわけですから、それはみんなで話し合っただけで前に進めていくしかないかなと思います。

県は県で独自でやっています。新聞にも載っておりました。地域にほとんど下ろすということでしたけれど、地域もなかなか難しいのです。僕はずっと前から言っていますけれど、地域力が今あまりないのです。その時に地域に下ろすということは、もっと難しいかなと私は逆に思っています。

だから熊本市は学校の方に残ったということで、先ほど鍵の管理のことを言われました。私もブラスバンドを指導したことが以前あったのですけれど、やはり誰が開けて、誰が閉めるか、というのは大変なのです。必ず生徒も来ていますから。

そういうこと1つにとっても、やりだしたら難しいことが必ず絡んできます。そういうことも解決しながら、ここまで来て、これから進めていく中においては、みんなで共通理解をしながら進めていくということが一番大事かなと思いました。

参加させていただきましてありがとうございました。

#### 【藤本委員】

藤本です。お世話になりました。

私は仕事柄、スポーツ指導というのを35年ぐらいやってきました。

技術を教えるのは、そこまでマニュアルと経験されれば難しくはないのですが、やっぱり対人なので、いろんな子どもたちもおられると思いますので、そこが非常に難しいということをお伝えしたかったことが一番です。指導の難しさというのは、人を動かすというのが難しいということなので、それをお伝えしたかったと思いました。

ありがとうございました。

#### 【坂下委員長】

ありがとうございます。それでは最後に私の方から一言ご挨拶申し上げます。

今回は2回という、大変短い期間ではありましたが、委員の皆様もおっしゃいましたように、前に進むために難しい問題がたくさん出てきて、その中でも、重要な人材の確保、そして、研修というところでご議論いただいたところでございます。

前回の検討委員会から引き続き委員の皆様にも入っていただきましたが、先ほども平江委員の方からありましたように、中学生期、自分の好きなことを仲間と一緒にやる。そして自分が変わっていく、そういうところを体験する貴重な機会、これを何とか減らさない、そういう思いです。また、教育的な意義を踏まえ、熊本市の場合は、学校に残すとしました。ただ、学校だけでは、今まで本当にお世話になってきましたが、持続可能は難しい状況ですので、地域の力も借りるというところで進めてきたところですが、いろいろな課題も出てきております。

委員の皆様から貴重な意見をいただきました。

そして、熊本市の中でも、それぞれの地域によって実情も違ってくると思いますので、学校・地域・保護者、そして、こどもの声も、今、こどものニーズ等も多様になっています。

こどもたち同士で話し合う中で、方向性も見えてくる場合もあるかと思しますので、こどもの声も聞きながら進めていただければと思っております。

あと2年ということでなかなか難しい部分もたくさんあるかと思いますが、持続可能な、こどもにとっての経験の機会を減らさないというのが、これまでの会議を通しての願いでございます。

どうぞ今後ともよろしく願いいたします。

2回でしたけれども、委員の皆様本当にありがとうございました。大変お世話になりました。

それでは時間になりましたので、本日の議論を終了したいと思います。

何かお気づきになられたことがありましたら、教育委員会事務局教育改革推進課の方どうぞ、ご相談・ご連絡をお願いしたいと思います。

なお本会議の議事録につきましては、事務局にて作成の後、委員の皆様へ送付されますのでご確認をよろしく願いいたします。

その後、私の方で最終確認を行い、確定させていただいてもよろしいでしょうか。

それでは、議事録についてはそのように取り扱わせていただきます。

皆様のご協力でスムーズに進行することができました。大変ありがとうございました。

それでは進行を事務局にお返しいたします。

#### 【清水教育審議員】

坂下委員長、ありがとうございました。

事務連絡を1点いたします。

配付しています会議資料のファイルは、本日が最終回となるため、各自でお持ち帰りいただければと思います。

本日検討いただいた内容を含め、今後本市の方針等について、ご意見等ありましたら、教育改革推進課までご連絡いただきますようお願いいたします。

以上をもちまして、「第2回熊本市部活動改革検討委員会」を閉会いたします。

本日は、大変お忙しい中、ありがとうございました。